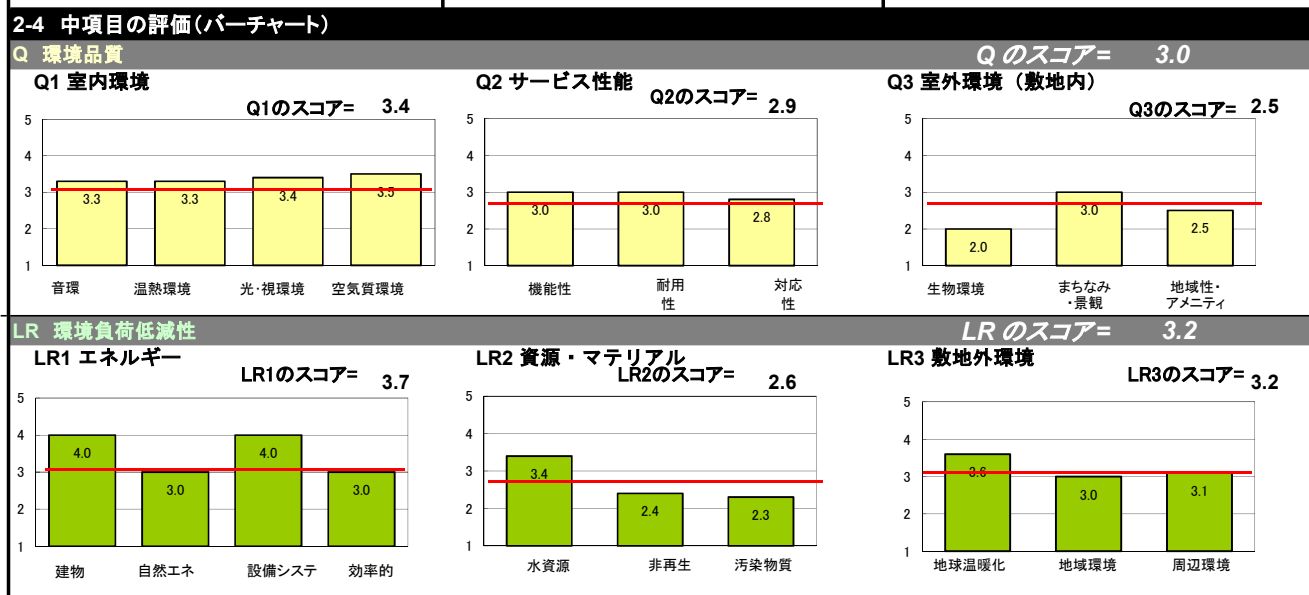
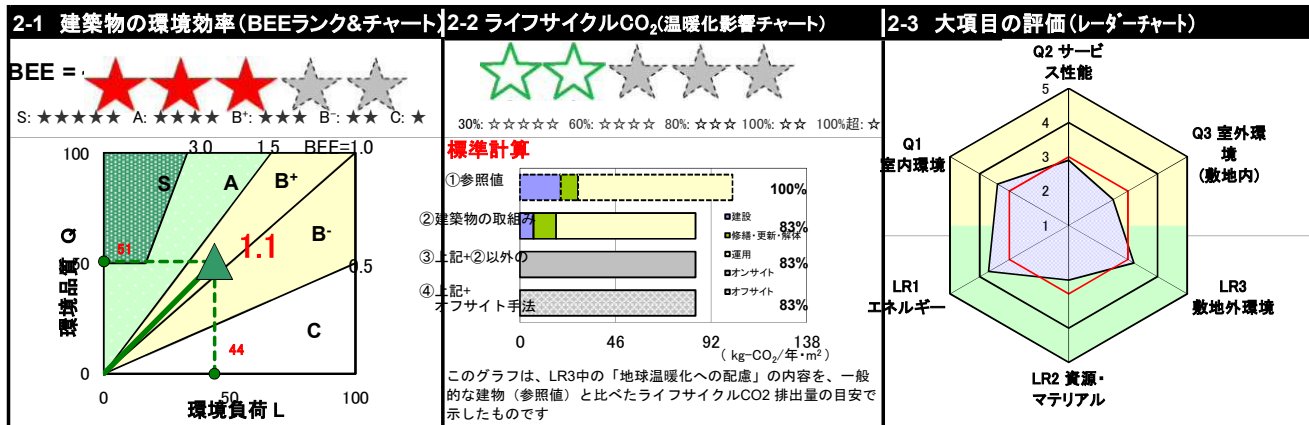


CASBEE® 名古屋 | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システム 名古屋版 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)オープンレジデンス瑞穂区洲雲町四丁目 新築工事	階数	地上15F
建設地	名古屋瑞穂区洲雲町四丁目63.64-2.66-2.67-1.67-2.67-3.67-4	構造	RC造
用途地域	商業地域、緑化地域、準防火地域	平均居住人員	168 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年9月 予定	評価の実施日	2022年12月12日
敷地面積	933 m ²	作成者	
建築面積	345 m ²	確認日	2022年12月12日
延床面積	4,333 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
計画建物周囲に植樹を施し、市街地である道路沿いの環境の改善に努めた。また、断熱等性能等級における等級4を満たすことで、環境負荷の低減に努めた。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
遮音サッシT2採用などにより音環境の向上、昼光率の高い、明るい室内環境を目指した。	劣化3等級など、建物の耐用年数の向上に努めた。	低木や中・高木を密植させ、蒸発冷却効果による敷地外への熱的影響の低減に努めた。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
省エネ4等級の断熱仕様、建物の専有部、共用部ともにLEDを採用し、環境負荷低減に努めた。	便器やシャワーヘッドなど、節水機能のある商品を採用し、水資源の節約に努めた。	低木や中・高木を密植させ、蒸発冷却効果による敷地外への熱的影響の低減に努めた。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)オープンレジデンス瑞穂区洲雲町四丁目 新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.6
LR1	エネルギー	3.7	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.6	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				2.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				2.7
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.6



2. 自然共生

評価点 = 2.3



3. 循環型社会

評価点 = 2.7



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2)において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。